

・双方向性 SNS(必須)(全期間)

全応募者、全受講者が必須参加するネット上の討議の場。一般的な SNS とメールマガジンとの双方の利点を取り入れたサイトにおいて、受講生、スタッフ、リザーブ・メンバー、応募者、その他(厳格な資格審査による参加)が自由に、かつ相手を誹謗・中傷することなく、冷静かつ論理的・実証的に討議を行う。参加者は、それが社会の公序良俗に反しない限りにおいて、どのような情報でも自由に掲載できるし、掲載された情報に対して自由にさまざまな反応をアップすることができる。したがって、発言そのものについて責任を問われることはないが、反応・応答には厳しいものが想定されるので、社会的諸関係にかかわる耐性が求められる。要するに、この場は「仲良しクラブ」ではなく、真摯な闘う場でもある。

双方向性 breathing room(講読、情報発信、問題提起、討議)であるということは、受け身ではなく主体的に参加することであり、参加者は、たんに情報の受け手としてではなく、発信側、そして反応側としての役割を担っている。半面、外部に対しては完璧な個人情報保護に努め、第三者への責任を排除することを意味している。

他方、管理者は、この場での論議を推敲し、個人情報を秘匿した上で、一般の SNS(Face Book, Line 等)との連携をはかり、賛意アップ、メッセージ掲示等を行い、双方向性 SNS への社会的評価を探る。つまり、この場で生まれた意義深い「情報発信」については、積極的に外部に対して情報を発信し、社会貢献の契機とする。

ここでは、参加者が自由に有益な情報の提供、問題提起(「白熱講義」を超える思考力・創造性・論理性)を行うことができる。管理者は、一定期間間隔で、さまざまな領域にかかわる問題・疑問を課題として提起し、これには全員が応答・回答・解答する義務を負う。文章力の強化だけではなく、問題意識の先鋭化、構想力・創造性の培養、積極的な相互批判精神の推進、社会への関心・感応を高めること、社会的知識の豊富化、問題解決能力の開発、他者性・社会性の強化、組織行動への習熟、学習する組織の形成、等々さまざまな成果に期待する。また、管理者による受講者の総合的な評価、学習達成水準の高度化、隠された能力の顕在化などの果実も得られる。

この場では、日本語および英語を公用語とする(将来的には英語を公用語とする)。その他の言語、シンボル(画像、音声)、メタファの使用を積極的に推奨する。

習熟段階に応じて、個別追求テーマの設定を許可する。すなわち、社会的意義が高いテーマ設定については、一定期間、全員がそれらの事項について集中的に討議する機会を付与する。

期間	無期限に継続させる
密度	毎日
場所	ネット上の双方向・多機能メールマガジン
義務	1日1回以上の書き込み、問題提起についての討議
評価	20~30のパラメータを用いて評価。自由度を阻害しない範囲でプラス指向の評価